

193 ピラトによる尋問(裁判)

ヨハネによる福音書 18 : 28~38、マタイ 27 : 1~2、11~14、マルコ 15 : 1~5、ルカ 23 : 1~5

28 人々は、イエスをカイアファのところから（ピラトの公邸である）総督官邸に連れて行った。明け方であった。しかし、彼らは自分では官邸に入らなかった。汚れないで過越の食事をするためである。

→ピラトはエルサレム滞在中は、神殿を見下ろすところにある**アントニア要塞**の中の宿舎に住んだ。特に、過越祭の時は、興奮したユダヤ人たちが起こす暴動に備えた。

→総督官邸はローマ人である異邦人が住み、建物の中に入ると儀式的に汚れると考えた。

→ピラトの所に来たのは、祭司長たちが中心であった。

- ①前夜、過越しの食事は既に終わっていた（祭司を除く）。
- ②祭司長たちは他の者たちと違い、朝に過越しの食事が用意された（AM9時に過越しの羊が神殿で屠られる）。
- ③祭司長たちは、この裁判が終わってから過越しの食事をしていた。

29 そこで、**ピラト**が彼らのところへ出て来て、（ローマ法に従って）「どういう罪でこの男を訴えるのか」と言った。→⑤

→①：ファイル No.188 を参照

②：ファイル No.190 //

③：ファイル No.190 //

④：ファイル No.192 //

→ポンティオ・ピラト（生没年不詳）は、ユダヤを統治したローマ帝国の第5代ユダヤ属州総督（タキトゥスによれば皇帝属領長官、在任：26~36年）。ユダヤ人歴史家ヨセフスは、ピラトを残忍、不正であったと記している。



出典(図): バイブルガイド(いのちのこば社): 地名等は口語訳表記

太陽暦・ユダヤ暦・バビロニア暦

太陽暦	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月(ヘブライ暦)	第一の月	第二の月	第三の月	第四の月	第五の月	第六の月	第七の月	第八の月	第九の月	第十の月	第十一の月	第十二の月	
ユダヤ暦	ニサン Nisan, Nissan	イヤール Iyyar	シバン Sivan, Sivan	タムーズ Tammuz	アブ Abh, Av	エルール Elul	ティシュリ Tishri	マルヘ シュバン Marcheshvan	キスレーヴ Kislev, Kislev	テベット T'ebheth	シュバット Shvat	アダール Adhar, Adar	
バビロニアの月名 (():カナン) の古称	ニサン (アビブ)	イヤール (ジウ)	シワン	タンムズ	アブ	エルル	ティシュリ (エタニム)	ヘシュワ (ブ)	キスレウ	テベト	シェバト	アダール	
主な行事	七週間 14~21 過越祭(ベサハ) 満月 除穢祭		七週祭(シャブオット) 新月 五旬祭(ペンテコステ Pentecoste ギリシア語) ※ユダヤの三大祭: 過越祭、七週祭、仮庵祭		1: 新年 10: 大贖罪日 15~21: 仮庵祭(スコット) 満月			25: 宮清めの祭 (ハヌカの祭り) (25日~8日間)		①イエス・キリストが過越祭の時に、子羊として十字架にかけられ、殺された。 ②三日目によみがえられた。→復活祭			

- ・ユダヤ暦は、日本の旧暦と同じく、月の満ち欠けを基準に月を決める方式(太陰太陽暦)です。
- ・ユダヤ暦は、一日が日没(夕方)に始まり、次の日の日没(夕方)に終わります。それは、聖書の創造の記事に「夕べがあり、朝があった」(創世記1:5他)と記されているからです。
- ・イスラエルでは普段の生活には、西暦も使っていますが、ユダヤ教の祝祭日や公式行事はユダヤ暦によって決められています。
- ・ユダヤ暦は天地創造を起点にして数えることになっており、西暦+3760年(西暦よりも3760年長い)となる。

30 彼らは答えて、「この男が悪いことをしていなかったら、あなたに引き渡しはしなかったでしょう」と(誤魔化しの訴えを)言った。

→(リビング・バイブル)「やつが犯罪人でないなら、逮捕したりはいたしません！」彼らも負けずにやり返します。

31 ピラトが、「あなたたちが引き取って、自分たちの律法に従って裁け」と言うと、ユダヤ人たちは、「わたしたちには、人を死刑にする権限がありません」と言った。

→ピラトは、①イエスが宗教的な理由で裁判にかけられていることを見抜き、②ユダヤ人の宗教に関することは、ユダヤ人の法廷で裁くのが本筋である、と訴えを退け応えた。

32 それは、御自分がどのような死を遂げるかを示そうとして、イエスの言われた言葉（→異邦人に渡され、十字架刑で死ぬ[マタイ 20 : 19]）が実現するためであった。

→（リビング・バイブル） こうして、ご自分がどのような方法で処刑されるか、イエスが前もって話しておられたことが現実となったのです。

→（聖書協会共同訳） それは、ご自分がどのような死を遂げることになるのかを示して語られた、イエスの言葉が実現するためであった。



ピラトの前に引き出されたイエス
(1881年-Mihály Munkácsy) ©Public Domain

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 3 / 聖句等の総数 33250]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
S ヨハネによる福音書	3:14 そして、モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。	
S ヨハネによる福音書	8:28 そこで、イエスは言われた。「あなたたちは、人の子を上げたときに初めて、『わたしはある』ということ、また、わたしが、自分勝手には何もせず、ただ、父に教えられたとおりに話していることが分かるだろう。	
S ヨハネによる福音書	12:34 すると、群衆は言葉を返した。「わたしたちは律法によって、メシアは永遠にいつもおられると聞いていました。それなのに、人の子は上げられなければならない、とどうして言われるのですか。その『人の子』とはだれのことですか。」	

33 そこで、ピラトはもう一度官邸に入り、イエスを呼び出して、（個人的に尋問し）「(皆が言っているように) お前がユダヤ人の王なのか」と言った。

→イエスがカイザル（ローマ皇帝）と同じように自分は王であると認めれば、政治犯として裁判にかけられた。ローマ帝国への反逆は十字架による死刑に相当した。

34 イエスはお答えになった。

「**あなたは自分の考えで、そう言うのですか。それとも、ほかの者（→ユダヤ人）がわたしについて、あなたにそう言ったのですか。**」→ラビ的応酬話法（質問に対して質問で応える）

35 ピラトは言い返した。

「わたしはユダヤ人なのか。お前の同胞や祭司長たちが、お前をわたしに引き渡したのだ。いったい何をしたのか。」

→（リビング・バイブル） ピラトはかん（→癩）に触ったのか、強い口調で言いました。

「私がユダヤ人だとも言うつもりか。おまえをここに引っ立てて来たのは、ユダヤ人と祭司長たちだろう。いったい何をしでかしたのか。」

36 イエスはお答えになった。

「**わたしの国は、（サタンの支配下にある）この世には属していない。もし、わたしの国がこの世に属していれば、わたしがユダヤ人に引き渡されないように、部下が戦ったことだろう。しかし、実際、わたしの国はこの世には属していない。**」

37 そこでピラトが、「**それでは、やはり王なのか**」と言うと、

イエスはお答えになった。「**わたしが王だとは、あなたが言っていることです（→言っているとおりです）。わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。**」

→（リビング・バイブル） 「なんだと、それじゃあ、やっぱりおまえは王なんだな！」「いかにもそのとおりです。わたしは、この世に真理を伝えるために生まれたのです。真理を愛する者はみな、わたしに従うのです。」

38 ピラトは言った。「真理とは何か。」

ピラトは、こう言ってからもう一度、ユダヤ人たちの前に出て来て言った。「わたしはあの男に何の罪も見いだせない。

→ (リビング・バイブル)「真理だと？真理とは何だ。」ピラトは吐き捨てるように言うと、またユダヤ人たちのところへ行き、こう提案しました。「あの男は無罪だ。

→ピラトはユダヤ人たちの所に出て行き、イエスには罪がないことを認めた。

【参考】 真理はあなたたちを自由にする VERITAS LIBERABIT VOS

「真理」(→ギリシア語でアレーテイア alētheia=何も隠さないこと、ヘブライ語でエメト emeth=堅固、不変性、持続)は、多くの人々が長い歴史の中でそれは真実であると考えられる知識あるいは価値体系を言います。聖書に書かれている事柄は「真実」であり、その中で教えられている内容は「真理」であり、今も昔も、多くの人々に受け入れられています。そして、他からの要求、友達や家族等の要求から自由になること、自分自身から自由になることが人間にとって最も幸いなことだと聖書は教えています。

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 7 / 聖句等の総数 33250 <真理>8個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: 真理]
K 箴言	23:23 真理を得よ、知恵も諭しも分別も手放すな。 Buy the truth and do not sell it—[wisdom], [instruction] and [insight] as well.	
S ヨハネによる福音書	8:32 あなたたちは真理を知り、 <u>真理はあなたたちを自由にする。</u> 」 VERITAS LIBERABIT VOS(ラテン語) 真理=イエス・キリスト	
S ヨハネによる福音書	14:6 イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。 I am the way and the truth and the life. No one comes to the Father except through me.	
S エフェソの信徒への手紙	4:15 むしろ、 <u>愛に根ざして真理を語り</u> 、あらゆる面で、頭であるキリストに向かって成長していきます。	
S エフェソの信徒への手紙	4:24 神にかたどって造られた新しい人を身に着け、 <u>真理に基づいた正しく清い生活を送る</u> ようにしなければなりません。	
S エフェソの信徒への手紙	6:14 立って、 <u>真理を帯として腰に締め</u> 、正義を胸当てとして着け、(6:15 平和の福音を告げる準備を履物としなさい。)	
S テモテへの手紙 I	2:4 <u>神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。</u>	

▶神から出る知恵は、絶えず公平と真理を告げる。正義と公正をもって人に接することが知恵ある生き方であり、律法が命じる生き方である。

→正義：正しい筋道、公正：公平で不正(邪曲)のないこと。

→諭しを受け入れて／正義と裁きと公平に目覚めるため(箴言1:3)。

▶イエス・キリストの御言葉に留まり続けるならば、私たちは真理であるイエス・キリストを知り、イエス・キリストは私たちが真実に自由な人間にしてくださる。

→真理はあなたたちを自由にする=VERITAS LIBERABIT VOS(ラテン語、ウェーリタース=真理・リーベラービト=自由にする、解放する・ウォース=あなたたち)⇒イエス・キリストは私たちが自由にする。

▶イエス・キリストは、イエスご自身そのものが、神の真理を学び、神と共にある命を見出すための道であると主張している。

▶イエス・キリストはすべてのものの上にある頭(かしら)であり、教会の頭である。

▶兵士の帯は皮などで出来た幅が広いもので、体を保護し、装備品を取り付けられるように仕立ててあった。神の真理がキリスト者を取り巻くように、帯は兵士の体に巻き(帯=神の真理)、胸当ては、喉や心臓、肺を覆った。兵士の履物は底にスパイクを打ち付けた革製のサンダルの為、動きにくかった。